

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人間生活学部	人間生活学科				14	14	13	
	食物栄養学科				14	14	13	
	児童学科				15	15	13	
	メディアデザイン学科				14	14	13	
	建築デザイン学科				14	14	13	
	心理学科				14	14	13	
音楽学部	音楽学科				14	14	13	
薬学部	薬学科				20	20	19	
文学部	日本文学科				14	14	13	
	英語英米文化学科				14	14	13	
	文化財学科				14	14	13	
理工学部	機械創造工学科				14	14	13	
	電子情報工学科				14	14	13	
	ナノ物質工学科				14	14	13	
総合政策学部	総合政策学科				14	14	13	

香川薬学部	薬学科				19	19	19	
保健福祉学部	人間福祉学科				14	14	13	
	看護学科				14	14	13	
	理学療法学科				14	14	13	
	診療放射線学科				16	16	13	
	臨床工学科				13	13	13	
	口腔保健学科				14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/41.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/15.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	無職	R4. 4. 8 ～R6. 4. 7	財務担当
非常勤	会社役員	R4. 4. 8 ～R6. 4. 7	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>											
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年度の授業の計画は、年度初めに学生に配布するとともに、学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考(オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー)</p> <p>【作業日程】</p> <table border="0"> <tr> <td>1月31日(月)～2月10日(木)</td> <td>2022年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業</td> </tr> <tr> <td>2月14日(月)～2月25日(金)</td> <td>教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック</td> </tr> <tr> <td>2月28日(月)～3月7日(月)</td> <td>学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告</td> </tr> <tr> <td>3月8日(火)～3月14日(月)</td> <td>学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出</td> </tr> <tr> <td>3月16日(水)～</td> <td>次年度時間割発表 学生閲覧開始</td> </tr> </table>		1月31日(月)～2月10日(木)	2022年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業	2月14日(月)～2月25日(金)	教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック	2月28日(月)～3月7日(月)	学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告	3月8日(火)～3月14日(月)	学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出	3月16日(水)～	次年度時間割発表 学生閲覧開始
1月31日(月)～2月10日(木)	2022年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業										
2月14日(月)～2月25日(金)	教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック										
2月28日(月)～3月7日(月)	学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告										
3月8日(火)～3月14日(月)	学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出										
3月16日(水)～	次年度時間割発表 学生閲覧開始										
授業計画書の公表方法	http://ptl.bunri-u.ac.jp/syllabus/										
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>											
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学年当初に示す授業計画(シラバス)に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則および履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイド等で学生に示し、適正に評価・認定している。</p>											

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPAの算出方法】

学期末に、各科目の成績評価の得点を、下表により4, 3, 2, 1, 0の数値(グレート・ポイントという=GP)に置き換える。GPに当該科目の単位数を乗じて、その合計を総履修単位数で除する。(成績通知書の表記は小数第3位を四捨五入したものとする。)

評 価	得点	G P
優	90～100	4
	80～89	3
良	70～79	2
可	60～69	1
不認定／再試	0～59	0
追試／保留／取消 通年科目の途中評価	対象外	

GPA算入科目：卒業要件の対象科目

(注) 次の科目も算入される。

- ・欠席時数が授業時数の3分の1を超え、定期試験を受験できなかった科目
- ・学期の途中で履修をやめたが登録取消の手続きをしていない科目
- ・再履修科目の過去の不認定科目

【GPAの算出式】

当期GPA＝

{(当該学期のGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP)×(当該科目の単位数)}の合計／
当該学期のGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

年間GPA＝

{(当該年度のGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP)×(当該科目の単位数)}の合計／
当該年度のGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

累積GPA＝

{(当該学期までのGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP)×(当該科目の単位数)}の合計／
当該学期までのGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

【実施状況】

各学期末に卒業要件の科目を対象とし、上記方法によりGPAを算出している。成績分布の図表は、学科学年ごとに作成する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/50.pdf キャンパスガイド等に記載し、入学時に全学生に配布 成績通知書発送時に説明文書を送付 学生ポータルサイトに説明文書を掲載
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学の教育理念に基づき、各学部・各学科において、どのような資質・能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するかについてディプロマ・ポリシーを定め、「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心・態度」「技能・表現」の4つの観点から具体的に示して公表している。

加えて、卒業に必要な単位・年限を明示するとともに、卒業に係る学長と教授会の役割についても定めている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/50.pdf キャンパスガイドに記載し、入学時に全学生に配布
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021kessansyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021kessansyo.pdf
財産目録	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2022.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021kanjikansahoukokusyo.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/research/hyouka/university/pdf/bunri_univ292.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/research/hyouka/university/pdf/bunri_univ291.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間生活学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 人間生活学部は、最先端の知識・技能を教授研究し、かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追求して、より豊かで幸せな人間生活の実現のために、広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 多様な 6 学科から構成されており、人々の生活に欠かせない食・衣・住に加えて、教育、心理、さらには高度化する情報化社会などについて総合的かつ専門的に学ぶとともに、現代社会が抱える様々な課題に柔軟に対応し、21 世紀の豊かな生活を切り開いていく能力・資格を身に付けることを目指します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 6 学科から構成されている。一般総合科目、専門的基礎分野の開講を出発点として、教育実習等の関連性にも配慮しつつ、順次高度な専門分野を加えるように体系的に編成している。なお、講義科目や実験・実習科目等の配分には細かい注意を払っている。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf , キャンパス内 入学時配布, 入試要項, 大学案内)
(概要) 6 学科それぞれで、人間生活に欠かせない学問分野を専門的に学び、豊かな生活が創造できる実践的な専門家(管理栄養士, 幼・小・中・高教員, 保育士, 情報処理士, 建築士, 認定心理士など)を養成します。 1. 学部の求める人物像 (1) 各学科に必要な基礎知識を有し、それを生活や勉学で生じる疑問や課題の解決に応用することに興味・関心のある人を求めます。 (2) 継続的な努力のできる強い意志をもつ人を求めます。 2. 入学試験の基本方針 教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。 一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。
学部等名 音楽学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパス内 入学時配布)

<p>(概要)</p> <p>音楽学部は、音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部の教育課程において、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <p>[ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽クリエイター&アーティストの各コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】 2. 上記 1 に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技能・表現】 3. 上記 2 を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 4. 専門分野のみならず幅広い教養を身に付け、演奏家、教育者など様々な音楽分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 <p>[音楽療法コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】【関心・意欲・態度】 2. 世界基準 (Global) の音楽療法を学び、地域 (Local) のヘルスケアニーズに応えられる“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】 3. 音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】 4. 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>音楽学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>[ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽クリエイター&アーティストの各コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、「基礎ゼミナール」と基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。 2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。 3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的内容から、より高度で専門的な内容の科目まで、順次配置する。 4. 高等学校教員免許・中学校教員免許 (1種) を取得するため、また音楽指導者を目指すための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。 5. 音楽療法士 (1種・2種) を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。 6. 4年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、4年間の研究成果を評価する。 7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には、発表する機会を提供する。 <p>[音楽療法コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士 (1種) 養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配

<p>置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。 とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。 2年次の「音楽療法実習」では、「音楽療法総合演習」、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 3年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を受けながら、地域の病院、福祉施設等の障がい者のニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 4年次の「音楽療法実習」では、少人数の学生グループが、自立して、地域の病院、福祉施設等のクライアントのニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。実習での教員の援助は最小限にとどめられるが、「音楽療法総合演習」において実習の内容を取り扱い、より高度なメソッド、テクニックの利用についてアドバイスを与えることによって、自身のセラピーがさらに豊かなものになるようにしている。 4年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf, キャンパスガイド 入学時配布, 入試要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部の求める人物像 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 (2) 音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人 2. 高等学校等で修得が望ましい内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽の基礎的知識や能力を身に付けていること。 (2) 部活動やボランティア活動に参加するなど、音楽活動に積極的に取り組む姿勢を身に付けていること。 (3) 自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。 3. 入学試験の基本方針 <p>さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。特に実技、面接などでは、個人のもっている能力の可能性を評価します。</p>

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要) 薬学部は、薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに、最高最新の科学を教授研究することを目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の専門家として必要な医薬品及び薬物治療に関する知識を有し理解している。 2. 最新の医療情報を理解できる英語力を身につけている。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様化する医療に対応できる技能とコミュニケーション能力を身につけている。 2. 薬学に関する専門的な情報を解析・評価することができる。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を発見し、それを解決する研究マインドを身につけている。 2. 医療人としてふさわしい責任ある行動を理解している。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者本位のチーム医療を実践するため医療人としての豊かな人間性、倫理観、そして、使命感を身につけている。 2. 地域における医療の担い手としての薬剤師の役割を自覚し、生涯にわたって学習する意欲を持ち続ける。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>「教育目的」、「教育目標」、ディプロマ・ポリシーを達成するために、下記の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次では、薬学部での学習意欲を高めるために、入門的な薬学概論、病院・薬局・行政・企業・福祉施設を早期に体験する学習を配置する。また、少人数討論を含む演習、一般教養を身につけるための一般総合科目を配置する。 2. 全学年を通じて、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した薬学の基礎知識と専門知識を学ぶための科目、臨床への応用のための科目を順次配置する。 3. 長期実務実習をふまえた、医療準備教育を効率的に配置する。 4. 長期実務実習では、地域に密着した病院、薬局において、これまで学習した基礎的な知識・技能を実践の場で活かすとともに、その必要性や重要性を体得できるようにしている。 5. 主体的学習態度、課題発見・問題解決能力を養うため、3年次から研究室に配属しての長期間の卒業研究を実施する。 6. 研究意欲の高い学生のために、1, 2年次のどこからでも研究室の一員として研究に関わることが可能となる学部内インターンシップを設定している。 7. 研究室における卒業研究の一環として、英語論文を読みこなし、内容をわかりやすく紹介する機会を設定する。 8. 6年次において卒業研究発表会を実施し、調査、研究した内容を簡潔にまとめてわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定する。 9. 長期実務実習、及び、長期間にわたる卒業研究を通じて、豊かな人間性の構築、コミュニケーション能力を醸成する。 10. 本学薬学部の特徴を活かしたアドバンスト科目をコース別に配置し、より専門的、実践的な知識を身につけられるようにしている。 11. 6年次においては、6年間を通じて学習した基礎知識、専門知識を薬剤師として活用できるよう総合的な学習科目を設定している。 12. 成績評価は、科目の特性に応じて適切かつ多様な評価方法と基準を設ける。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf, キャンパスガイド 入学時配布, 入試要項, 大学案内)</p>

<p>(概要)</p> <p>1. 学部の求める人物像</p> <p>薬学部では、医療人として「くすり」の専門家を担う薬剤師を養成します。チーム医療に必要な多職種間連携を実践する人間力を育てるために、最新の薬学を勉強するとともに、豊かな教養と人間性を身に付け、地域や国際社会に貢献できる資質を備えることが重要であると考えています。そのために、密度の高い日々の学習や研究活動への参加をとおして、より深い基礎学力、研究マインド（課題発見能力と問題解決能力）、コミュニケーション能力を養成します。このような薬学部での取り組みに共感し、薬学部の勉学に取り組みたいと強い意欲をもっている人を求めます。</p> <p>2. 高等学校等で修得が望ましい内容</p> <p>(1) 薬学部での修学内容に対応可能な基礎学力を、高等学校等において修得している。</p> <p>(2) 課題や問題に対し主体的に対応できる能力をもっていること。</p> <p>(3) 豊かな人間性、協調性、コミュニケーション能力を有し、将来において医療人として活躍する明確な意欲をもっていること。</p> <p>3. 入学試験の基本方針</p> <p>さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
--

<p>学部等名 文学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部は、各時代の文学を通じ、日本文学・語学及び文化を精究し、英語を駆使できる国際人、先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>伝統文化の上に立ち、国際化の時代を生きる人間として必要な考察力を身に付け、あわせて情報化社会に適応した取捨選択能力を獲得することで、文学や文化遺産を創造的に生かす人材となることを目的とします。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部のディプロマ・ポリシーに基づき、「自立協同」の建学精神を体得した社会人として活躍するために、5つの領域の基礎科目群を履修し、基本的力量を修得するカリキュラムの編成をしている。即ち、3学科共通の専門科目として、多様な情報を比較・検討した上で自らの考えをまとめ、それを的確な日本語で表現し、情報機器を駆使して分かりやすくプレゼンテーションできる力を養成する。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次では、日本語及び情報の基礎から応用力を体得し、併せて日本文化や欧米の歴史を学び、幅広い教養を身に付ける科目を設置している。 ・2・3年次では就職試験に役立つ基礎から応用力を身に付ける科目を設置している。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf, キャンパスガイド 入学時配布, 入試要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <p>3学科でそれぞれ、日本文化、英語圏の文化及び日本の文化遺産に関する幅広い教養と</p>

専門的な知識を身に付けた、応用力のある思考と行動ができる人材を育成します。「自立協同」の建学精神に則り、教員と学生あるいは学生同士が議論を交わし、主体的に学びを深めようと望む人を求めます。

1. 学部の求める人物像

- (1) 感性に富み、問題意識を豊かにもつ、積極性のある人
- (2) 目標をもち、継続的な努力ができる人

2. 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。

一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

学部等名 理工学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)
(概要) 理工学部は、「創造力のあるもの創り」、「情報通信」、「環境・バイオテクノロジー」、「ナノテクノロジー・材料」、「ライフサイエンス」をキーワードとして、理学的・工学的基礎のうえに、専門的学術を教授研究し、科学技術の進歩に柔軟に適応できる能力を身につけ、豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)
(概要) 本学部の教育課程を経て、学士としての一般的な教養、理学と工学に関する基礎的知識、各学科の専門科目に関する【知識・理解】、【感心・意欲】、【思考・判断】、【態度】、【技術・表現】を修得しておくことを求めています。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)
(概要) 理工学部のディプロマ・ポリシーに基づき、社会人として必要な一般的な知識や態度を身につけ、「自立協同」の精神にのっとり地域や組織で適切な役割を担える能力を修得するため多くの授業を配置している。理工系の教育は、概して積み上げの色合いが強く、専門技術習得のためには基礎的な数物化系科目の修得が必須である。そのために、1年次に高大連携の導入教育や基礎教育あるいは入学前教育や補修補講を準備している。2年次専門科目では、数物化系科目の高度な修得や、各学科の専門分野の知識や論理的な思考の修得及び体験型(実験・実習)を重視した授業を行っている。職業観・勤労観の育成は、インターンシップの奨励・指導等を通じて実施するように編成している。基礎及び専門科目では「ものづくりを通して人づくり」を主眼とする、職業教育の充実を目指した教育課程を編成方針としている。 また常に変わる社会状況において新たに生まれる課題や問題を解決するため、生涯を通じて継続的に学習し、自らの能力を高め続けるための方法論を学び、効率的な修学習慣を身につける。さらに、大学において身につけた知識・技術を社会において活用し、社会の一員として十分な活躍ができるように、自己表現力、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力を身につける。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf, キャンパスガイド入学時配布, 入試要項, 大学案内)</p>
<p>(概要) 人や地球に優しい先端科学の知識や技術を修得し, 理工学的基礎の理解に加え, 応用分野の知識を備えた, 実践的な科学者・技術者を育成します。</p> <p>1. 学部の求める人物像 (1) 自分の夢や目標をもち, 継続的な努力ができる人 (2) 柔軟な発想力をもち, 積極的な取り組みができる人</p> <p>2. 高等学校等で修得が望ましい内容 (1) 数学や理科の基礎科目を修めていること。 (2) 自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。</p> <p>3. 入学試験の基本方針 教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて, 人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。 一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し, 総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p>
<p>学部等名 総合政策学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf, キャンパスガイド入学時配布)</p>
<p>(概要) 総合政策学部は, 法学・政治学・経済学・経営学・社会学など, 社会科学の幅広い学問の教授研究を行い, 広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf, キャンパスガイド入学時配布)</p>
<p>(概要) 総合政策学部は, 以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身につけていると判断したときに, 学士(総合政策学)を授与します。</p> <p>【知識】 法学・政治学・経済学・経営学・社会学など社会科学の幅広い学問の知識の中核をなす原則的な知識について十分に理解していること。またその知識を応用し, 社会問題の解決のための対策案を考案できること。</p> <p>【技能】 ①聴く。 社会問題の解決策を立案するために, 自分より専門性の高い人材の意見を聴き, 必要な情報を得る技能をもっている。 ②表現する。 自分の問題意識, 解決策の思考過程, 解決案を組織の人々に理解されるよう表現することができる技能を有している。 ③説明する。 自らが考案した問題解決策を組織の人々に説明し, 同意をえるよう説得するコミュニケーション力を有している。</p> <p>【姿勢】 常に, 社会における問題, 組織の抱える問題を発見できるよう行動する。社会における多様な価値観や個人の差異を理解し, 問題発見のきっかけを見逃さないよう行動する。問題解決に向けて努力を惜しまないで行動する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf, キャンパスガイド入学時配布)</p>

(概要)

総合政策学部・総合政策学科は、ディプロマ・ポリシーの達成のために、(1)教育課程の編成方針、(2)教育内容・方法、(3)学修成果の評価、の方針を以下のとおり定める。

(1) 教育課程の編成方針

- ・第1年次には、複数の視覚からの分析を行いうる基礎的知識を涵養するために一般総合科目を置く。
- ・第1年次から第2年次において、社会科学の幅広い学問に通暁した知識を得るために専門分野の基礎的内容を教授、専門教育科目に「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「経営学概論」「社会学概論」を置く。また、社会の問題への適用や複数の視覚をもちいる力を身に着けるための「総合政策学概論」を置き、これらを必修科目とする。
- ・第2年次から第4年次にかけて、社会科学の幅広い学問分野を実社会の問題に適用するための知識をえる専門科目を設置する。一例として「現代契約法」「ミクロ・マクロ経済学」「経営戦略論」「現代社会論」などである。また、日本学術会議の分野別参照基準にいう「基本的素養」を教授する科目を設置する。
- ・第2年次後期には、「専門基礎演習」として、「卒業研究」にとりくむための、文献調査法、社会調査、データ分析等の技術を学ぶ科目を設置する。第3年次から第4年次にかけて「卒業研究」にとりくませ、具体的な社会の問題を解決するに必要な総合政策を立案する能力を養う。

(2) 教育内容・方法

- ・「調べ、考え、議論する、そしてそれを文章にまとめる」を教育のモットーとし、教育課程におけるすべての科目に適用する。つまり、「基本的知識を獲得する目的での講義」、「自身の知識の定着をはかる授業外学習（調べ・考え）」、「多様な価値観をもった人間同士が話し合うことで考え方の優劣を知るSGD (Small Group Discussion) (議論する)」、「その結果をレポートにまとめる」といった教育方法を有機的かつ効果的に組み合わせる。

(3) 学修成果の評価

- ・知識の定着度合を評価する「筆記試験」、多様な考え方を持った者同士の議論の成果を含む「レポート」、その成果をさらに自分のものとして咀嚼する「プレゼンテーション」などの実技、など科目の教育目的に応じて組み合わせて評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページ <https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf>,
キャンパスガイド入学時配布, 入試要項, 大学案内)

(概要)

1. 学部の求める人物像

主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人を求めます。

- (1) これまでの生活のなかで、価値観や意見の対立を克服した経験などをもとに、社会科学の基礎的知識を用いた問題解決策を立案する能力を身に付けたい人
- (2) 将来、企業社会、公共分野、国際社会といった実社会の問題を解決するために、多様な価値観や考え方を知り、広い視野を有するゼネラリストとして活躍したい人

2. 高等学校等で修得が望ましい内容

(1) 思考力・判断力・表現力等の能力

- ① 一定量の日本語または英語の文章を読み、筆者の考え方をくみ取ることのできる基礎的能力
- ② テーマを与えられて、自分の意見を的確に、一定の時間と分量で論理的に記述する能力

(2) 社会事象を分析・記述するための知識・技能

- ① 社会事象を分析・記述するために必要な「数学」・「簿記」の知識
- ② 現代社会に生じている課題や現代社会を支える制度についての基本的知識
- ③ 社会問題の発見のための自然科学や人文科学の基礎的知識

<p>3. 入学試験の基本方針</p> <p>求める人物像の主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度と、(1)思考力・判断力・表現力等の能力、(2)知識・技能を総合して判定を行います。学力試験だけでなく、調査書、志望理由書(作文)などの資料、面接試験での応答などを試験種別に応じて組み合わせます。</p> <p>一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを重点的に評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p>

<p>学部等名 香川薬学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>香川薬学部は、薬学に関する教育プログラムに基づき、薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師及び探求心を有した薬の科学者を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>「自立協同」の精神を基本に6年の課程を修了して、卒業に必要な単位数を修得し、以下に示す能力を備えた学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「医療人としてふさわしい、豊かな人間性、高い倫理観や使命感を身につけている。」 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 「薬のスペシャリストとして必要な化学物質と生命に関する基本的知識・技能・態度を身につけている」 【知識・理解】 【技能・表現】 「地域における人々の健康の維持・増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を身につけている。」 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 「薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、医薬品の適正使用を推進する能力と、医薬品を供給し、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を身につけている。」 【技能・表現】 【知識・理解】 「医療チームに積極的に参画し、他職種とコミュニケーションをとりながら、連携・協働して薬剤師に求められる行動を適切にとれる。」 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 「科学的根拠に基づいて問題を発見する能力、問題を解決する能力を身につけている。」 【思考・判断】 【知識・理解】 「常に自己研鑽・相互研鑽する意欲や、後進の育成に積極的に関わる態度を身につけている。」 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>香川薬学部の教育理念に基づきディプロマ・ポリシーの7項目を実現するため、真に実力があり、社会に貢献できる薬学人を養成することを目的として、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠し、豊かな人間性をもった医療人としての高い医療倫理観が育まれ、幅広い知識が獲得でき、問題発見能力と問題解決能力が身につく教育プログラムを編成する。</p> <p>1年次には、入学までの基礎学力に応じたプログラムを準備し、豊かな人間性の醸成、コミュニケーション能力の向上、薬学人として自覚を獲得できる教育プログラムを配置する。</p> <p>2年次以降は、薬物療法の実践と医薬品を適正に使用する能力さらに地域の人々の健康</p>

を支えることができる能力を醸成するために、1年次後期から開始される薬学専門教育を順次専門性の高い教育へと体系的かつ総合的に修得できる教育プログラムと、薬学基礎実習を通して必要な技能・態度の修得できる教育プログラムを配置する。

3年次には、薬学専門教育をさらに究めるとともに、2年次から続く実習を通して、技能・態度の修得だけでなく、問題解決能力を醸成させる教育プログラムを配置する。

4年次には、5年次の病院・薬局における実務実習に必要な知識・技能・態度を修得するための科目を配置する。また、配属された講座において卒業研究の準備段階にあたる研究を経験することで、早くから問題発見能力および問題解決能力の獲得に向けた教育プログラムを準備する。

5年次には、医療の現場でチーム医療の一員としての薬剤師業務を体験する実務実習、問題解決能力が修得できる卒業実習、将来希望する進路に向けてさらに専門性を深めた実務を学べるアドバンストコースを配置する。

6年次には、卒業研究を完成させるプログラムを配置するとともに、薬剤師として必要な知識・技能・態度を発揮できる能力を身につけるための総合的演習を配置する。

なお、薬剤師として身につけるべき生命・医療倫理、チーム医療とコミュニケーションおよび薬剤師に関わる社会の仕組みについては、6年間かけて修得できるようにすべての学年に教育プログラムを配置する。

以上の教育プログラムに従う教育を年次毎に実施し、学修成果は、筆記試験あるいは口述試問およびレポート等により総合的に評価する。これに加えて、1～6学年の全ての必修科目について、香川薬学部の7つのディプロマ・ポリシー(DP)へ寄与する割合(DP配分)を設定している。各授業科目の評定時の試験の得点にDP配分を乗じて(単位数も乗じる)6年間にわたり修得全科目について積算したDP得点を算出し、これにより卒業までの総合的な学習の成果(DP達成度)を測定する。(DP得点/DP累計=DP達成度)

入学者の受入れに関する方針

(公表方法:ホームページ <https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf>,
キャンパスガイド入学時配布, 入試要項, 大学案内)

(概要)

1. 学部の求める人物像

今日の高度に専門化が進んだ医療に携わる薬剤師には、専門職として薬及び病気についての深い知識だけではなく、患者に寄り添う豊かな人間性と高い倫理観が強く求められています。先進的なチーム医療において「薬のスペシャリスト(専門職)」として貢献でき、病気の苦しみを理解して医療にあたることのできる薬剤師を養成します。知識、技能と医療の心を身に付け、地域に密着して活躍する薬剤師をめざすため次のような人を求めます。

- (1) 意欲、探究心が旺盛で明朗な人
- (2) 医療に対して高い倫理観をもち、薬学分野で貢献したいという強い志をもつ人

2. 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1) 幅広い知識を構築する基礎科目に加え、薬学の基盤となる理系科目を修めていること。
- (2) 文章の読解・作成等に必要な言語能力、及び表現力を身に付けていること。
- (3) 知識を総合的に関連づけて問題解決する能力を有すること。

3. 入学試験の基本方針

2の修得が望ましい内容(1), (2), (3)の観点から総合的に判断します。一般選抜では、(1)の観点から、各教科の基礎が身につけていることを重視します。学校推薦型選抜では(1), (2)の観点に、総合型選抜では(2), (3)の観点に重点を置き、高い学習意欲と明確な目的意識を評価します。

学部等名 保健福祉学部

教育研究上の目的

(公表方法:ホームページ <https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf>,
キャンパスガイド入学時配布)

<p>(概要)</p> <p>保健福祉学部は、医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-dp.pdf, キャンパスガイド入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間福祉学科，看護学科，理学療法学科，診療放射線学科，臨床工学科，口腔保健学科より構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年の課程を修了して，卒業に必要な単位数を修得する。 ・生命に対し深い畏敬の念を抱き，豊かな人間性と良識を持つ。 ・保健，医療あるいは福祉の専門家として必要な論理的思考，問題解決能力，協調性，コミュニケーション能力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf, キャンパスガイド入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>授業科目を一般総合科目，専門教育科目としている。1年次は，幅広い教養を身につけ，医療・福祉の基礎を学び，2年次は，各科関連の技術を修得する。3年次，4年次は，臨地実習を行い理論と実践を統合させるとともに，自ら関心がある分野を発展させ，国家試験に向け学習する教育課程を編成している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-ap.pdf, キャンパスガイド入学時配布，入試要項，大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <p>人々の健康と福祉の向上をめざす，質の高い，社会に貢献できる有能な専門家（診療放射線技師，臨床工学技士，歯科衛生士，理学療法士，看護師，保健師，助産師，社会福祉士，精神保健福祉士など）を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部の求める人物像 高等学校等で幅広い基礎学力を身に付け，保健・医療・福祉に興味をもち，継続的な努力ができる人を求めます。 2. 入学試験の基本方針 教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて，求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。 一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し，総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/23.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
人間生活学部	－	26人	17人	11人	1人	1人	56人
音楽学部	－	4人	3人	2人	0人	0人	9人
薬学部	－	21人	8人	10人	10人	0人	49人
文学部	－	15人	0人	1人	0人	0人	16人
理工学部	－	13人	6人	3人	1人	1人	24人
総合政策学科	－	7人	5人	2人	0人	0人	14人
香川薬学部	－	14人	4人	8人	5人	0人	31人
保健福祉学部	－	43人	18人	18人	3人	1人	83人
一般総合科目	－	4人	14人	3人	0人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		106人					107人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/index1.html						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間生活学部	405人	269人	66.4%	1,615人	1,196人	74.1%	若干名	7人
音楽学部	30人	13人	43.3%	120人	41人	34.2%	若干名	4人
薬学部	150人	72人	48.0%	990人	463人	46.8%	若干名	0人
文学部	90人	73人	81.1%	360人	305人	84.7%	若干名	1人
理工学部	110人	88人	80.0%	440人	344人	78.2%	若干名	1人
総合政策学部	100人	84人	84.0%	380人	331人	87.1%	若干名	1人
香川薬学部	90人	49人	54.4%	540人	252人	46.7%	若干名	0人
保健福祉学部	345人	306人	88.7%	1,360人	1,180人	86.8%	若干名	0人
合計	1,320人	954人	72.3%	5,805人	4,112人	70.8%	若干名	14人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間生活学部	252人 (100%)	16人 (6.3%)	188人 (74.6%)	48人 (19.0%)
音楽学部	10人 (100%)	3人 (30.0%)	7人 (70.0%)	0人 (0.0%)
薬学部	110人 (100%)	4人 (3.6%)	58人 (52.7%)	48人 (43.6%)
文学部	65人 (100%)	3人 (4.6%)	53人 (81.5%)	9人 (13.8%)
理工学部	58人 (100%)	8人 (13.8%)	47人 (81.0%)	3人 (5.2%)
総合政策学部	95人 (100%)	1人 (1.1%)	75人 (78.9%)	19人 (20.0%)
香川薬学部	44人 (100%)	1人 (2.3%)	24人 (54.5%)	19人 (43.2%)
保健福祉学部	256人 (100%)	6人 (2.3%)	227人 (88.7%)	23人 (9.0%)
合計	890人 (100%)	42人 (4.7%)	679人 (76.3%)	169人 (19.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年間の授業の計画は、年度初めに学生に配布するとともに、学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考（オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー）</p> <p>【作業日程】 1月31日(月)～2月10日(木) 2022年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業 2月14日(月)～2月25日(金) 教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック 2月28日(月)～3月 7日(月) 学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告 3月 8日(火)～3月14日(月) 学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出 3月16日(水)～ 次年度時間割発表 学生閲覧開始</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 学年当初に示す授業計画（シラバス）に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。 成績評価および単位認定の基準については、学則及び履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイド等で学生に示し、適正に評価・認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間生活学部	人間生活学科	124 単位	有・無	単位
	食物栄養学科	124 単位	有・無	単位
	児童学科	124 単位	有・無	単位
	メディアデザイン学科	124 単位	有・無	単位
	建築デザイン学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
音楽学部	音楽学科	124 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	英語英米文化学科	124 単位	有・無	単位
	文化財学科	124 単位	有・無	単位
理工学部	機械創造工学科	124 単位	有・無	単位
	電子情報工学科	124 単位	有・無	単位
	ナノ物質工学科	124 単位	有・無	単位

総合政策学部	総合政策学科	124 単位	有・無	単位
香川薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
保健福祉学部	人間福祉学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	127 単位	有・無	単位
	理学療法学科	124 単位	有・無	単位
	診療放射線学科	124 単位	有・無	単位
	臨床工学科	124 単位	有・無	単位
	口腔保健学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/60.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
人間生活学部	人間生活学科	670,000 円	280,000 円	336,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	食物栄養学科	670,000 円	280,000 円	388,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	児童学科	670,000 円	280,000 円	388,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	メディアデザイン学科	670,000 円	280,000 円	408,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	建築デザイン学科	670,000 円	280,000 円	408,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	心理学科	670,000 円	280,000 円	356,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
音楽学部	音楽学科	1,110,000 円	300,000 円	706,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
薬学部	薬学科	1,120,000 円	400,000 円	786,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
文学部	日本文学科	670,000 円	280,000 円	336,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	英語英米文化学科	670,000 円	280,000 円	336,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	文化財学科	670,000 円	280,000 円	356,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
理工学部	機械創造工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	電子情報工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	ナノ物質工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
総合政策学部	総合政策学科	700,000 円	280,000 円	408,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
香川薬学部	薬学科	1,120,000 円	400,000 円	786,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
保健福祉学部	人間福祉学科	670,000 円	280,000 円	356,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	看護学科	920,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	理学療法学科	850,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	診療放射線学科	920,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	臨床工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	口腔保健学科	850,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
修学支援（任意記載事項）					

※その他の納付金

- ・入学手続き時のみ研修部入会金 1,000 円
- ・人間生活学部食物栄養学科、保健福祉学部看護学科・理学療法学科・診療放射線学科・臨床工学科・口腔保健学科は、臨地(臨床)実習費が別途実費負担
- ・休学する者は学費等を免除、ただし休学在籍料として 120,000 円(年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
1. 入学前教育 総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目の教科書、参考書、書籍等の配布、レポート提出等の入学前教育を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。この取組は、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。
2. 新入生導入教育等 平成 19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講した。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。また、低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。
3. シラバスの充実 学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及び Web 上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。平成 25(2013)年度より、授業形態と授業時間外学習の欄を設け、学生に時間外学習を促すための取組を行っている。また、平成 29(2017)年からは学生からの相談に対応するため、備考欄に「オフィスアワー(学生からの相談や質問を受け付ける時刻と場所を明示)」を記載している。
4. 学習ポートフォリオの電子化 本学では、従来の紙媒体ではなく、電子化学習ポートフォリオを導入し、学生のモチベーションと学習到達度を高める体制を整えている。ここでは、学生が自宅等での学修やアルバイト等に費やした時間も調査して分析し、担任やチューターによる指導に役立てている。
5. クォーター制の導入 平成 26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週 2 回行われるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取組を強化することができる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要)
1. 組織 本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と地域及び世界の発展に貢献する人材を育成することを目標に、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げての支援を行っている。

2. 取組の概要

本学では特色ある各学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をとおした支援は就職支援部で実施している。

また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国 16 カ所で開催の保護者会で担任及び就職支援部の就職相談を実施している。

採用活動のオンライン化にいち早く対応するなど、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取組を推進している。

(1) 一般企業対策支援

各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。1人1人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。

また、卒業後も随時の就職相談に対応しており、卒業後1年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。

○キャリア推進プログラム

- ・全学部の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。
- ・インターンシップガイダンスによるインターンシップ参加の推進。
- ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。

○就職支援プログラム

- ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己PR文の作成、SPI・筆記試験対策、論作文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座、2年生対象ウォームアップセミナー)
- ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年2回実施
- ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施
- ・就職状況調査を年3回実施
- ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施
- ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施
- ・学内合同企業説明会や個別の企業説明会の実施
- ・学内就職支援システム及び求人受付NAVIによる就職情報のインターネット提供
- ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング

(2) 公務員対策支援

全学共通教育センターが「公務員試験対策講座」を開講し、筆記試験対策をはじめ、自治体ごとの詳細な情報を提供するとともに、随時、相談に応じている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。

(3) 教員・保育士対策支援

全学共通教育センターが採用試験対策のための「教員養成対策講座」や教職ガイダンス・各種セミナーを開講し、筆記試験や面接、模擬授業等の指導を行うとともに、模擬試験を実施している。また、次年度対策として「教員・幼保合格体験発表会・交流会」を開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○保健衛生

1. 各種健康診断
2. 健康相談
3. 救急・応急処置
4. 健康の保持増進及び予防啓発
5. 健康診断書の発行
6. 各種調査・報告
7. 学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求

○メンタルヘルス

1. 精神に関する相談
2. 対人関係の相談
3. 性格相談
4. 発達障害の相談
5. ハラスメント相談
6. 保護者からの相談
7. 学生に関する教職員の相談
8. 専門機関への紹介

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.bunri-u.ac.jp/research/>
<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F136310110264
学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		463人	442人	486人
内 訳	第Ⅰ区分	272人	266人	
	第Ⅱ区分	122人	111人	
	第Ⅲ区分	69人	65人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				489人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	18人		
計	30人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	19人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	22人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。